



■平成29年3月3日～3月28日、3月会議が開催されました。

山本議員の一般質問を通じて、議会活動報告をいたします。  
なお、委員会などのトピックスは、ホームページの「山本せいご議会だより」でご覧になれます。

## 山本せいごの一般質問（3月会議）

### 学校給食について



#### センター方式における食中毒の拡大リスクについて

本年、学校給食による集団食中毒が、1月に和歌山県御坊市で小中学生等が800人以上、2月に東京立川市で児童・教職員を含む1000人以上が食中毒の被害にあっている。

**質問1:**食中毒が発生した場合、センター方式は単独調理方式より感染対象範囲が広く、拡大するリスクが高い。本町の考え方を伺う。

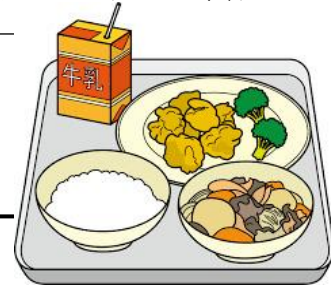
答弁:①学校教育衛生管理基準では、「給食設備等の整備と管理、調理過程の衛生管理、衛生管理体制、衛生検査」の4項目が定められている。徹底を図ることにより万全な体制に努めている。

**質問3:**センター方式において、調理をしてから配送され、食べるまでの時間についてどう考えているか。

答弁:①基準では調理後2時間以内に喫食とされている。給食センターから各中学校への配送は約12～13分、渋滞でも20分以内で配送できる。  
②あったかいものはあったかく、冷たいものは冷たいままで食べていただくのが願い。  
先進地の視察では、「専用の入れ物」を使い、できたてと変わらないくらい温かかった。  
この設備費が高いので、引き続きそういう設備の研究をしていきたい。

**質問2:**御坊市では最新の衛生管理手法を取り入れていたが、それでも食中毒が発生した。本町における管理体制の現状と中学校給食の管理体制をどう考えているか。

答弁:①学校教育衛生管理基準を厳守し、普段から定期的に給食調理員の衛生管理の徹底と充実を指導している。  
②衛生面は、食品の検査を年1回、調理員の体調検査を月2回など基準に基づいて実施。管理面は、栄養教諭を5校中3校に配置、未配置の2校もその3人で分担管理している。学校教育課でも栄養士を雇用している。  
③点検は、作業箇所別、また調理の段階に応じて、基準に基づいた検査をしている。  
④各小学校では正規の職員を配置しており、その日の調理につく職員の健康管理や衛生的な服装などチェックをし、管理をしている。



### 農産物の地産地消の食材調達について

給食の食材調達で地産地消に貢献しているが、今年度の地産地消の推進について伺う。

**質問1:**米飯給食における米の調達ルートと単価設定はどうなっているか。

答弁:①米の調達は、京都府学校給食会と地元の小売業者の2者から価格競争を経て決定している。

**質問2:**米飯提供回数を増やし生産者からの直接調達など、調達費の軽減と農業振興につなげてはどうか？

答弁:①週3回程度米飯としている。  
②米の生産者からの直接調達は、一定の品質の安定供給に対し、知識・技術・設備など持ち合わせた前項質問1で答弁の2者より購入が合理的と考えている。  
現状の方法で地元米の活用を図っている。

# 議会だより (つづき 1)

## ツアーオブジャパンについて



今年度の京都ステージの開催に向けてPRに取り組むとしているが、課題等の取り組みについて伺う。

**質問1:** 28年の初めての開催での課題や反省点を抽出し、評価検証された結果を問う。

- 答弁: ①交通安全対策に経費がかさみ、赤字決算であった。  
②警備の連携に課題があり、警備体制に一部混乱があった。  
③ご当地グッズ販売品が用意できなかった。また出展者間で不公平が生じた。  
④交通規制の内容がわかりにくかった。

**質問3:** 京奈和道の側道部分で、コースとして一部退避場所を確保したが、日常的な自動車の通行には使い勝手が悪い。日常生活とあわせてコース整備することを求める。

- 答弁: ①生活道路としても、車両の離合ができる長さとして認識している。  
②主要道路でないため、今後スピード規制や安全に通行できる方策を検討する。



## 消防団ポンプ庫の整備状況について

**質問1:** ポンプ庫は残り何カ所の改築が必要か？耐用年数を何年と考え整備しているか？

- 答弁: ①町内に13のポンプ庫がある。残り1カ所である。  
〔 柘榴、光台6丁目及び8丁目を管轄する第3分団第3部の消防団ポンプ庫のみである。 〕  
②軽量鉄骨の車庫は、耐用年数25年となっているが、消防団ポンプ庫として特に定めていない。維持管理で長寿命化を進める。

**質問2:** 人口減少・団員不足が懸念されるが、受け持ち区域変更と団組織やポンプ庫の合併などの考えは？

- 答弁: ①組織の見直しや機動化など必要と認識はしているが、引き続き現在の消防団組織を継続していく。  
②現在272名の団員のうち28名が新しい地域の方で、90%は従来からある地域の方。消防団の維持管理に、新しい地域からの選出が一つの課題。



- (1) 給食の衛生管理のほか、センター方式の課題である調理品の搬送方法については、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくいただけるようにその仕組みを構築されるよう強く求めます。  
(2) 食材調達の地産地消について、食と農をあわせて取り組んでいる事例もある。農業振興に食教育と農業のドッキングで「農と学研都市の精華町」として研究していただきたい。  
(3) ツアーオブジャパンは、観光資源として地域振興につながる多様な取り組みを、一方でコース整備は日常生活と密着した安全道路・サイクリング道路などとして充実を図ることを求める。

山本せいご後援会事務所

精華町大字南稲八妻小字門口71

TEL/FAX

Eメール  
ホームページ

0774-94-3301

seigo722@balloon.ne.jp

<http://www.balloon.ne.jp/seigo722/>